

**令和6年度 第2回幸田町総合計画審議会
議事録**

- 日 時：** 令和7年2月17日（月）13時30分～14時50分
- 場 所：** 幸田町役場4階 ホール
- 参加者：** 委員名簿（別紙）
- 配布資料：** ①令和6年度第2回幸田町総合計画審議会（事前配布資料）
②第24回幸田町住民意識調査報告書（案）
③幸田町子育て世代アンケート調査報告書
④幸田町若者アンケート調査報告書
⑤幸田町地域ワークショップ報告書
⑥幸田町小学生ワークショップ報告書
⑦近隣市における総合計画の概要
⑧第2回幸田町総合計画審議会資料に対する意見（児玉委員）

1 第7次幸田町総合計画における基本構想（案）について

【事務局説明】

- 配布資料①に基づき、事務局である幸田町企画政策課の河村主事から説明を行った。

【廣井会長】

- 本日は配布資料①29ページ「まちづくりの将来像（案）」、30ページ「重点分野（案）」、32～38ページ「基本目標（案）」、そして40ページの「人口目標」について皆さんに議論していただきます。
- 第1回からこれまでアンケート調査やワークショップなどで住民の声を集めていただき、それをもとに将来像、重点分野、基本目標、人口目標の案を作ってきました。計画策定には住民の声に加えて、各分野の知見を持つ委員の皆様の専門性が必要であり、本日は忌憚のない意見をいただきたいです。

【委員からの意見】

○こうた環境ネットワーク 代表 重松委員

- 北部地区の協議会に参加しており、坂崎小学校および幸田小学校との接点があります。その中で坂崎小学校のマップ作りに参加しました。
- 小学生と親子と一緒に校区内を歩いて、子ども110番の位置や通学路を地図に書き込み、子どもの目線で危ないところや気を付けないといけないことなどを実際に確認するというものでした。ぜひ、このような取り組みを町内の他の小学校へも広めてもらいたいです。

→ 事務局（内田部長）

- 小学校ごとに、校区内の危険箇所などを確認する取り組みは先生や PTA が行ったり、子どもと一緒にいる例もある。ご紹介いただいた取り組み事例を町内の小学校へ伝えるようにします。

→ 廣井会長

- 32 ページにある基本目標では分野ごとに分かれているが、紹介いただいた取り組みは教育の場を使って、防災や防犯の取り組みを行うという分野を超えた取り組みです。教育と防災の 2 つの効果が期待できる取り組みであり、大変良い事例だと思います。こうした分野間にまたがった好事例を、総合計画などの中で取り上げてみてはどうでしょうか。

○民生委員児童委員協議会副会長 伊藤委員

- 38 ページの基本目標案「(6) 共に支えるまち」にある「共に支える」は福祉のイメージが強い。現在、地域福祉計画を策定する中で、同計画の基本理念として「支え合い共に生きるまちづくり」が掲げられている。基本目標 (6) の中で掲げてある①～④の項目、特に「③効率的で計画的な町政」、「④行政サービスのデジタル化」は「共に支える」とイメージが違う。第 6 次総合計画では「みんなのちからで続くまち」とされており、「共に支える」とは違っています。

→ 事務局（柴田課長）

- 基本目標は現時点での案として示しており、来年度 4 月以降に基本計画として基本目標の下に具体的な施策を記載していく予定です。
- 現時点での案についてご意見をいただければ、それを参考に変更していきたいと思いません。
- ご指摘の③、④は行政改革を含む施策を想定しており、「共に支える」というイメージと結びつきにくいかもしれませんので、基本計画を策定していく段階で他の言い回しなども検討していきます。

→ 廣井会長

- 「共に支えるまち」の中に福祉も含まれるとは思いますが、福祉分野は基本目標 (4) に掲げてあり、2 つの基本目標の扱いをどうするか検討が必要だと思います。
- ③と④はこれだけを見ると同じなのではないかと思われてしまいかねないので、基本計画の策定において具体的な施策を含めて検討してほしいと思います。
- 基本目標 (6) は本来、住民参加のことだと思われるので、他の表現も検討してください。

い。

→ 事務局（内田部長）

- 委員からのご意見も参考に検討したいと思います。

→ 廣井会長

- 「共に支える」という言葉の使い方が検討課題だと思われます。近隣市町の総合計画の概要をまとめた資料の西尾市の欄を見てもらうと、本町の基本目標（6）と類似するのは「⑥パートナーシップ、DX、シティプロモーション、コミュニティ、行財政運営」であり、それに対する基本目標は「誰もがキラキラと輝き、誇り・愛着の持てるまち」と表現されています。表現を見直す必要があると思います。

→ 事務局（柴田課長）

- 基本計画をこれから策定していく中で、いただいたご意見も参考に表現を検討していきたいと思います。

→ 廣井会長

- 次回以降、今回いただいた意見も考慮して表現を再整理するなどしていただきたいと思います。

○区長会会長 小野委員

- 配布資料①29 ページの 2 段落目「住民の皆様」の皆様は不要だと思います。
- 33 ページ以降の基本目標の下に列記された施策グループの表記でゴシック・下線付きの表記とそれ以外の違いは何か教えてほしいです。
- 33 ページ「(1) 暮らしやすいまち」の「②安心して出かけられる（公共交通の利便性向上）」と「③便利で安全な交通網」は同じではないか。
- また、「安心して出かけられる」という表現は防犯などを連想させるので表現を変えた方がよいと思います。
- 「④安全な水」や「⑤良好な住環境」という表現は大雑把すぎるのではないか。
- 「⑤良好な住環境」と「⑥快適な都市環境」も同じなのではないか。
- 37 ページの「歴史と文化」とあるが、文化はスポーツや芸術、音楽などを含むと思うが、歴史は文化に含まないのか。あるいは文化には含まれるが、歴史だけを別途書いた理由があるのならば教えてほしいです。
- 幸田町が安定して事業を実施するためには税収が欠かせないが、税収を確保するためには 5 万人規模の人口が必要だと以前に聞いたことがあります。そうだとすると、人口増加にもっと力点を置いた方がよいのではないのでしょうか。

- 今日の会議がどのような位置づけなののかもよく分かっていない。今日の会議は意見を聞くだけで、これからの会議で計画を策定していくのかも分からない。

→ 事務局（柴田課長）

- 33 ページ以降のゴシック・下線付きの表記とそれ以外の違いは、31 ページの表にある「社会情勢の変化および求められる対応」に列記した 6 項目に対応した施策について、ゴシック・下線付きの表記としました。最終的にはすべて同じフォントで統一する予定です。
- 人口は目標を 43,000 人としました。推計では横ばいから減少するとされている中、子育て施策や若い世代の定住促進施策などに取り組みながら増加を目指したいと思えます。また、生産年齢人口や年少人口を特に増やしていくように努めていきます。
- 幸田町が魅力的な町として、交流人口や関係人口を増やしたり、道路などアクセスの向上などにも取り組んでいきますので、5 万人には届かなくても多くの人口が集まれるような都市構造を目指すことを整理して盛り込んでいきたいと思っています。
- 本日の会議では基本構想および人口目標について考えていただき、方向性を定めてもらうための会議です。今後の 10 年間で本町が進んでいく方向性について合意していただきたいと思えます。
- また、本日は基本目標までを皆さんに見てもらっていますが、その下にある施策グループを含めて基本計画は 4 月以降に改めて詳細に整理していこうと思っていますので、現時点での案についてご意見を聞かせてください。

→ 廣井会長

- 基本目標以下はこれから表現を更新していきますのでご意見をお願いします。
- 子育て世代アンケート調査結果では「将来なっしてほしい町のイメージ」で 83.9%の方が「教育に積極的で子育てしやすいまち」を上げており、若い世代は圧倒的に子育て支援を求めていることが分かりますので、もっと子育て支援に力点を置いてもいいのではないかと思います。子育て支援について 29 ページのまちづくりの将来像に含めたり、30 ページの重点分野の中でもっと力を入れた表現にしたりしてもいいのではないかと思います。

○幸田荻谷土地区画整理事業準備委員会 副代表 稲吉委員

- アンケートやワークショップでは「交通の便が悪い」や「買い物が不便」という結果がよく出ているが、これに対してどう対処していくのかについて聞かせてほしい。

→ 事務局（柴田課長）

- アンケートやワークショップの結果では「交通の便が良い」「買い物が便利」という意見も出ている。

- 交通に関しては、世代や地区によっても意識の差があるのではないかと思います。どのような方々が交通について不便を感じているのかを確認していきます。
- 買い物に関しても、日常的な買い物はスーパーなどがあり便利だが、休日などに買い物を楽しむ大型の商業施設がないということから評価が分かれているのではないかと推測されます。

→ **廣井会長**

- 交通といってもいろいろあり、岡崎市や名古屋市へのアクセスなのか、幸田町内での移動手段のことなのかでも違いがある。このあたりのスコープを、これから絞って方針を示していく必要性もあるかもしれない。
- 30 ページの重点分野の中で交通に関しては「みんなが集うまちの仕組みを整える」に含まれるのでしょうか。

→ **事務局（柴田課長）**

- 重点分野はご指摘のとおりです。「みんなが集うまちの仕組みを整える」の中で交通のほか、ライフラインや道路網の整備や交流人口の増加なども含めています。

○**民生委員児童委員協議会副会長 伊藤委員**

- 現在、地域のコミュニティが非常に脆弱になっている。コミュニティがしっかりしていないと災害時にも困るし、行政が全てをできるわけでもないので、総合計画の中でも地域のコミュニティについての言及があった方が良いと思います。

→ **事務局（柴田課長）**

- まちづくりに関してすべてを行政が担えるものではないということは明らかになっており、「共に支えるまち」という基本目標の中に地域コミュニティによる取り組みも含めております。地域で絆を深めながら、お互いに支え合っていくことを基本計画には記載していきたいと思っています。

→ **廣井会長**

- 「共に支えるまち」の中にある男女共同参画や多文化共生も大切ですが、既存の地域コミュニティも大事にしていけないと思いますので、総合計画の中に反映してもらいたいと思います。

○**区長会会長 小野委員**

- 33 ページ「(1) 暮らしやすいまち」の 5 つの項目の表現が文章と体言止めで統一されていないので、どちらかに統一した方が良いと思います。

- 37 ページ「(5)誰もが学べるまち」の3つの項目は表現が簡素すぎるので、より内容を深めて表現したものにしてほしいと思います。

→ 事務局（柴田課長）

- 今後、基本計画を策定していく中で内容を詰めていくので、表現も工夫していきたいと思います。

→ 廣井会長

- 現時点で多くの表現は暫定的な案ではありますが、配布資料⑥の近隣市の事例を見ていただくと、岡崎市の「公民連携による成長戦略の推進」「コンパクトな都市構造の構築」や西尾市の「新たな魅力に挑戦するまち」など、重点分野を支えるための方法論が言及されている。現時点での基本目標は分野しか示していないので、これを支える理念（方法論）、例えば愛着だとか、コンパクトだとか、成長とか、連携とかという重要な要素が抜けてしまうので、今後、そういう要素も盛り込んで更新していく予定でしょうか。

→ 事務局（柴田課長）

- 今回の総合計画では基本目標に加えて、重点分野というものを加え、行政分野を横断的に取り組んでいったり、戦略的に連携したりして取り組んでいくようにしたいと思っています。
- 基本目標の中で分野別に列記していく施策については、部署ごとに個別計画をもとに策定していきます。見せ方や表現の仕方についてもご意見を参考に工夫していきますので、ご意見ください。

○日本福祉大学教授 児玉委員

→ 廣井会長

- 本日は欠席されていますが、事前に書面でご意見をいただいていますので、事務局に紹介していただきたいと思います。

→ 事務局

- 配布資料⑦を基に紹介。
 - アンケート調査やワークショップで住民意識を集めたが、生活等に困難を抱える人たちのニーズも含めるため、対象をそうした人たちへの相談・支援を行っている社会福祉協議会等へ聞き取りをして、「2. 住民意識の状況」に加えてほしいです。
 - 少子高齢化・人口減少社会の到来への対応として、「支援を必要とする人や世帯への対応」が求められることを具体的に示し、それに合わせて基本目標（4）の表現

を更新してほしいです。

- ▶ 国連の定義では、幸田町は高齢化社会ではなく、超高齢社会であり、重点分野における用語を変更してほしいです。

→ 廣井会長

- これらのご意見に対する対応をご説明ください。

→ 事務局（柴田課長）

- 障がい者計画の策定する中で行ったヒアリング結果などを参考に意見を反映したいと思います。
- 福祉関係の機関への聞き取り調査も行っていきたいと思います。
- 人口減少社会への対応および超高齢社会については、ご意見をもとに表現を変えたいと思います。

○民生委員児童委員協議会副会長 伊藤委員

- SDGs とか、カーボンニュートラル、タウンプロモーションといった言葉は分かりにくいので、表現を工夫してほしいと思います。

→ 事務局（柴田課長）

- 前回の審議会でも、総合計画を策定する中でできるだけ分かり易い表現にしていくようにすることとなっておりますので、今回のご意見も参考に、日本語表記に代えたり、注釈を加えたりするなど、分かり易い表現に努めたいと思います。
- 計画に加えて作成する予定の概要版をより分かり易いものとしていきたいと思います。

→ 廣井会長

- 住民の方に見てもらうための工夫はとても重要なので、用語の取捨選択を再度検討する必要もありそうです。
- アンケートでは聞いていませんが、総合計画を見たことがないという人も多いと思います。多くの人に読んでもらい、将来像を共有し、町政へ関心を持ってもらえるものとする事は重要であり、子どもも読めるよう、言葉だけでなく、形式も工夫してほしいと思います。

○幸田荻谷土地区画整理事業準備委員会 副代表 稲吉委員

- 人口目標については、前回審議会では 5 万人という数字が出ていたが、今回は 43,000 人とされている。このように変更されたことについて説明してください。

→ 事務局（柴田課長）

- 10年前に策定した第6次総合計画では人口目標を42,000人とし、さらに将来的には5万人を目指すということを併記していた。今回、人口推計では横ばいから微減となることが予想される中で、これからも人口を維持し、少しでも伸ばしていくため、各種の施策にも取り組む予定であり、人口目標を43,000人としました。

→ 廣井会長

- 人口目標についてはしっかりした議論が必要だと思います。
- 参考に資料にある他市町の総合計画を見ると、岡崎市は現在38.5万人から目標50万人、西尾市は現在17万人から目標17.3万人、蒲郡市は現在7.9万人から目標7.7万人としています。他市の総合計画では微増とするところが多い。
- 現状を考えて検討した結果、人口目標を43,000人としたというご説明でした。ただ、10年後だけでなく、20、30、40年後を考えると人口はおそらく大きく減少していくと思われる。そのために今のうちに若い人たちを呼び込んでいこうということであり、10年後より先も考えないといけないので、この点は難しい論点かと思います。次回以降も議論していきたいと思います。

○老人クラブ連合会 会長 山本委員

- 30ページに重点分野が5つ、それに対して32ページに基本目標が6つあり、それぞれがどのように対応しているのかが分からないので、その関係について教えてほしい。

→ 事務局（柴田課長）

- 見せ方を改めて検討する
- 重点分野に挙げた課題は、横断的な取り組みが必要なものであり、関係部署が戦略的に連携して取り組む必要があるものです。一方で、基本目標は関係部署がそれぞれ個別計画などをもとに進めている取り組みです。したがって、重点分野と基本目標は1対1で対応するものではなく、重点分野は特に優先的に取り組んでいくもの、単独ではなく、部署を横断して戦略的に連携して取り組むものを5つ挙げてあります。

→ 廣井会長

- 30ページの重点分野に関連する施策について、33ページ以降の基本目標の中でゴシック・下線付きで表記されていると考えたのですがそうではないということですね。

→ 事務局（柴田課長）

- ゴシック・下線付きの表記は、31ページの表にある「社会情勢の変化および求められる対応」に列記した6項目に対応した施策について、行ったものです。

→ 廣井会長

- 総合計画では総合性、網羅性が特に求められるので総合計画から漏れてしまわないように様々な施策が盛り込まれますが、中でも特に優先的に取り組むのが重点分野としたということですね。

○幸田土地改良区 理事長 都築委員

- 30 ページの重点分野にある「人と環境にやさしい産業」について具体的に説明をお願いします。

→ 事務局（柴田課長）

- 近年、環境に配慮し、カーボンニュートラルなどへの取り組みが進んでいることを踏まえて「環境に優しい」と表現しています。
- また、幸田町では森林資源などを活用した産業なども育ていきたいとの考えも踏まえています。
- 「人に優しい」という表現は働く人にも配慮したという意味で加えています。

→ 廣井会長

- これに具体的に施策などが紐づいてくると分かり易くなるかと思います。

○こうた環境ネットワーク 代表 重松委員

- 「交通が不便」という意見が出ていますが、車に乗らない方々が特に不便だと思う。31 ページの社会情勢の変化に「新たな交通インフラの整備」という項目があるが、どのようなものを想定されているのか、具体的に教えてほしい。

→ 事務局（柴田課長）

- チョイソコというデマンド型乗り合い交通を豊坂、深溝小学校区では運行しています。これを他地区にも広げていくことを検討しています。
- 加えて、町役場で特に課題意識が高いのが、えこたんバスというコミュニティバスの運行ルートの見直しです。利用者数が低迷しており、利用者を増やす施策が必要であると認識しています

→ 廣井会長

- これが 33 ページの「安心して出かけられる」につながってくるのかなと思います。

○幸田荻谷土地区画整理事業準備委員会 副代表 稲吉委員

- 31 ページの社会情勢の変化と求められる対応として、「安全・安心意識の高まり」に対して「増加する自然災害への備え」とある。昨年、蒲郡市で土砂災害あり、数名の方が

亡くなられた。能登半島でも水害で亡くなられた方がでた。

- こういう災害への対応についてどのようにお考えか聞かせてください。

→ **事務局（柴田課長）**

- 防災や減災に取り組んでいく必要があるという認識は持っております。
- 総合計画では、今後基本計画の中で具体的に施策を盛り込んでいくことになります。

→ **廣井会長**

- 33 ページの「生命・財産を守る」につながってくるのかなと思います。

○**教育委員会 教育長職務代理 壁谷委員**

- 出生率を国が目標とする 1.8%とするということが掲げられているが、非婚化も進んでおり、企業誘致などで働く場を確保して若者が転入してきても出産になかなか結び付かない。どのようにして出生率を引き上げるのかについてどのような施策があるのかを聞かせてください。

→ **事務局（柴田課長）**

- 出生率を上げるために何をしたらよいのかはなかなか難しい課題ではありますが、幸田町では一時は出生率が 1.8%を超えていたこともあった。
- その当時を振り返ると、区画整理などが行われて若い人の転入が増えていました。働く場所と住む場所が整備されれば若い人の定住が進み、出生率も上がると思います。ただし、就業機会の確保と住宅整備だけではなく、子育てしやすい環境の整備、例えば子どもを遊ばせられる公園や緑のある場所を増やしたりするなどに取り組んでいきたいと思っています。

→ **廣井会長**

- 出生率をあげるというのは難しい課題ではありますが、ここに幸田町独自の施策を期待したいと思っています。

【廣井会長】

以上を持って議事を終了したいと思います。他にもご意見があれば電子メール等で事務局へご連絡ください。

【内田部長】

幸田町ではこれまで人口が右肩上がりが増えてきましたが、今後は横ばい、さらに減少し

ていくことも視野に入れていかなければなりません。転換期に差し掛かってきていると思います。そういった中で総合計画においてどのような方向性を示していくのか、町の将来を決めていく根幹となると思います。今後皆さんと一緒に考えていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。